



【喜茂別町のキャッチフレーズ】

人と自然がきらめく町

【喜茂別町のイメージマーク】

喜茂別町のイメージコンセプトを基に開発されたイメージマーク。
モチーフは、美しい自然（羊蹄山、利尻岳、中山峠・・・）と太陽。イメージは、美しい自然の中にいきいきと住む人々の笑顔であり、花の町です。全体の形は、次のステップに力強く踏み出す町民の姿です。



【町章】

中央の円の中の文字は喜茂別の「喜」。
円は町民の団結と平和、躍進を表し、
星は北極星で、北国の象徴。



町花／インパチエンス
(平成9年3月25日指定)



町木／エゾヤマザクラ
(平成9年3月25日指定)

北海道喜茂別町 町勢要覧2011

●編集・発行／喜茂別町

〒044-0292 虻田郡喜茂別町字喜茂別123

TEL (0136) 33-2211 FAX (0136) 33-3577

URL <http://www.town.kimobetsu.hokkaido.jp/>

E-mail : info@town.kimobetsu.lg.jp

●制作・印刷／株式会社須田製版

北海道喜茂別町
町勢要覧 2011

きもべつさん
こんにちは

Hokkaido Kimobetsu

喜茂別って ホッとする町だよ。



ごあいさつ

喜茂別町は自然に恵まれたところです。北海道で最初に全国「水の郷」百選に指定された美しい水のまち、そして、えぞ富士とよばれる羊蹄山をはじめ緑豊かな山岳景観に抱かれ、尻別川や喜茂別川の清流がせせらぎを奏でる。そんな風景がわたくしたちのまちの自慢となっています。

このような恵まれた自然環境を誇りながら、喜茂別町は、札幌市を中心とする道央経済圏の南西部に位置する利点をも併せ持っています。札幌市や新千歳空港へは車で90分程度。豊かな自然と都市近接が理想的にかなえられた立地であることはまさに特筆すべき点です。

また、数々の清流に恵まれ、その流域は昔から北海道有数の農業地帯として発展を遂げ、アスパラガスや馬鈴薯の名産地としてもその名を広めておりました。川を身近にした暮らしですから、もちろんそこには自然に関わる数々の困難や試練もありましたが、先人たちのたゆまぬ努力と郷土を愛する一途な思いにより、それを乗り越え発展を続けてまいりました。

清らかに流れる川に自然の優しさ、時に厳しさを教えられながら、何よりも未来ある子どもたちが豊かな心と大きな夢に出会えるまちであることを大切に考え、わたくしたちはこれからも「人と自然がきらめく」まちづくりに邁進してまいります。



町 長 菅原章嗣

喜茂別って？

**アスパラガス
栽培発祥の地だよ。**

豊かな水量と清流に恵まれた喜茂別は、道内でも有数の農業のまちです。なかでも、北海道を代表する初夏の味覚・アスパラガスは開拓使がもちこみ、昭和4年に本格的な栽培が始められた、まちです。

「道の駅」と「郷の駅」があるよ。

札幌市と道南を結ぶ交通の拠点・喜茂別は、憩いとやすらぎを提供するまち。まちの情報や特産物などをアピールするスポット、中山峠の「道の駅 望羊中山」と市街地の「郷の駅 ホツときもべつ」を有するまちです。

**アートと自然が
マッチしているよ。**

緑に囲まれ、森林浴や野鳥観察も楽しめる喜茂別は、「アートなまち」「道の駅 望羊中山」に隣接する「中山峠 森の美術館」では北海道の魅力を堪能でき、その周辺では自然と調和した野外彫刻を楽しめるまちです。

**ビューポイントが
たくさんあるよ。**

羊蹄山や尻別岳など、すばらしい景観に恵まれた喜茂別は、ビューポイントのたくさんあるまち。えぞ富士と呼ばれる羊蹄山の四季折々の雄姿を眺められる、自分だけのお気に入りの場所が見つかるまちです。

道内で最初に指定された「水の郷」だよ。

尻別川や喜茂別川など大小41の川が流れる喜茂別は、清流と水源に恵まれているまち。自然との共生をめざし、だれもが川に親しめるよう取り組み、道内でもっとも早く環境庁から「水の郷」の指定を受けたまちです。



**剣道、スキーなど、
色々なスポーツが
楽しめるよ。**

優秀な指導者や先輩に恵まれている喜茂別は、スポーツの盛んなまち。特に昭和27年から連盟をつくって活動してきた剣道とクロスカントリーでは、歴代の選手たちが数々の優勝をおさめ、その名をとどろかせたまちです。

活気があってイベントが多いよ。

まちづくりはもちろん、行事やイベントなどに町民みずから企画から運営まで参加する喜茂別は、活気のあるまち。各地域ごとの行事や周辺地域との交流なども盛んで、さまざまなイベントや祭りが多いためです。

未来にやさしいECOなまちだよ。

豊かな自然と景観をもつ喜茂別は、この美しい生活環境を整えて次の世代にも伝えていこうと取り組む、エコなまち。ゴミの減量化や資源化に取り組むほか、リサイクルの徹底や下水処理など、環境に配慮するまちです。

豊かな自然 が自慢だよ。

北海道でいちばん先に「水の郷」百選指定されました！



山から流れる清流とふれあえるんだよ

すぐれた水質と豊かな水量に恵まれ、環境庁から「水の郷」としての認定を受けている喜茂別町。

尻別川とその支流に沿って広がる町が、北海道内でも有数の農業地帯として豊かな発展を遂げてきたのも、恵まれた自然環境のおかげです。

水の郷にふさわしく、市街地を流れる喜茂別川には親水性に配慮した河川公園を整備。また、子どもたちが幼い頃から川と親しめるよう、尻別川や喜茂別川ではカヌーやイカダ下り、ラフティング、川の観察会などの行事が数多く実施されています。



豊富な山と川が美しい景色を見せてくれるよ

喜茂別という町名は、アイヌ語の「キム・オ・ペツ（山の多い川）」から転化したもの。尻別川・喜茂別川など大小41の川が流れ、別名「えぞ富士」で親しまれる羊蹄山や尻別岳などの山々に囲まれたまちは、四季折々の表情がまるで美しい絵のようです。山々の鮮やかな緑とせせらぎの心地よさが解放感を与えてくれる夏。豊かな収穫と、錦絵のような紅葉を迎える秋。雪化粧をした羊蹄山が鮮やかに映し出され、澄んだ空気がまちを包む冬。その後、ゆっくりとした歩みで、生命の息吹に満ちあふれた春がやってきます。四季の折々にふれて自然が雄弁に語りかけるもの。それは、人は自然によって育まれ、生かされているということ。

喜茂別町の豊かな自然は、住む人、訪れる人の心とからだをいつも癒してくれています。



美しい自然はボランティアが守っているよ

「水の郷・きもべつ」の清流を維持するためには、たゆまぬ努力が欠かせません。渓流釣りのメッカ・尻別川には全国のファンが集まりますが、「ヤマベを守る会」と「竿好会」では、年数回ヤマベやニジマスの稚魚放流を行っているほか、手づくり看板で釣り人に河川愛護を呼びかけています。また「竿好会」は、毎年5月から11月まで、尻別川の空き缶やゴミを拾う河川美化運動を続けています。

喜茂別の美しいせせらぎは多くの人々に支えられています。



ホタルの里の保全を！

町内で数カ所見られるホタルの生息場所をよりよい条件で保全するための「ホタル学習会」が開催されています。



せせらぎと釣りを楽しむ

竿好会が主催する喜茂別橋付近での「釣り大会」は、お盆で帰省した家族向けに始めたイベント。毎年好評です。



尻別川クリーン作戦

毎年恒例の「尻別川クリーン作戦」には大勢の町民が参加。ゴミを拾い集め、尻別川を美しく蘇らせます。



人や自然、未来に やさしい配慮だよ。

この美しい環境を、いつも、いつでも、いつまでも！

リサイクルして有効活用しているんだよ

喜茂別町では、環境への負担が少ない持続可能な社会をめざして、廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化などの取り組みを進めています。特に、生ごみの分別回収を実施し、焼却ゴミの減量化と生ごみの堆肥化を促進。近隣町村と協力して広域的に収集・処理を行うことで処理費用のコストダウンを図っています。一般廃棄物の最終処分は、水処理施設の規模を縮小させ、廃棄物や臭気の拡散防止、カラスなどの飛来防止が期待できるクローズド型（屋根付き）の最終処分場を採用しています。



資源化のために分別・再生

比羅岡にあるリサイクルセンターでは、各家庭から出された廃プラスチックやビン・缶・ペットボトルを分別し、再生・処理しています。



廃プラスチック分別の徹底を！

容器包装プラスチックは資源化されます。廃プラスチックの分別をきちんとすることが、経費の節減とリサイクルに役立ちます。



紙類もきちんとリサイクル

各家庭から出された新聞・雑誌・段ボールやミックスペーパーなどは、愛和の里作業所で内容点検と再分別を行い、再生されています。

ゴミの減量化に励んでいるんだよ

パーク堆肥生産施設では、家畜農家からの糞尿と粉碎パーク工場で生産されたパーク、生ゴミのコンポストを混入し、熟成堆肥を作ること、ゴミの減量と資源化を図っています。



パーク堆肥生産施設



バイオトイレ

町宮野球場のトイレをバイオトイレに切り替えました。水を使わずに普通のおがくずを使ってし尿を発酵・分解させます。



ゴミ収集ボランティア活動

ゴミ収集のボランティア活動には子どもからお年寄りまで積極的に参加しています。

きもべつ浄化センター



よりクリーンな水環境をめざしているんだよ

尻別川や喜茂別川の清流に育まれた豊かな自然と景観。この美しい生活環境を整え、衛生的で明るいまちづくりに取り組んでいくことがまちの使命です。下水道の終末処理場「きもべつ浄化センター」は、家庭などから排出される汚水を集め、きれいな水にして川に戻す施設で、喜茂別町の川の水質汚濁防止法等に定められた排水基準を満たすように処理の各工程で水質検査を行い、きれいな水環境を守ることにつねに努力を重ねています。



街灯のLED化で明るく安全に

低炭素化の実現に向け、町内に設置している街灯を省エネ効率の高い発光ダイオード(LED)に順次取り替え、二酸化炭素排出の抑制と夜間の安心・安全を確保します。



四季を通して色々な スポーツが楽しめるよ。

まちを挙げて作りあげたスポーツ環境



武道館



剣道で全国優勝の快挙も数々あるよ

喜茂別剣道連盟の創立以来、優秀な指導者や先輩に恵まれる喜茂別町は「剣道の強いまち」として知られています。わが町出身の選手たちは、道内はもちろん、全国や世界の選手権で数々の快挙を成し遂げてきました。



全国的に有名な栄花兄弟の活躍

喜茂別町出身の栄花英幸さん、直輝さんは、小学生、中学生と喜茂別町で剣道を習い、小さい頃から頭角を現し、英幸さんは赤胴個人全道大会で初の2連覇を達成、直輝さんも赤胴個人3位、団体優勝など好成績を収めました。高校、大学へ進学し、卒業後、英幸さんは教員、直輝さんは警察官として北海道へ戻り、仕事のかたわら、北海道代表として、都道府県対抗、全日本選手権、世界選手権に選手として出場し好成績を残すとともに指導者としても全国的に有名な剣道家として活躍しています。



喜茂別町の剣道のあゆみ

昭和27年、全日本剣道連盟設立と同じ頃、喜茂別剣道連盟は創立されました。それから確実な成長を遂げ、昭和39年には喜茂別高校が全国大会に初出場。42年には少年の部で全国初優勝を飾りました。



クロスカントリーでも有名だよ

喜茂別町はスキーマッパでもあります。町民の体力向上と健全な心身の育成を目的に、喜茂別スキー連盟が発足したのは昭和27年。子どもたちへのスキー技術の向上に努力してきた結果、「剣道のまち・喜茂別」とともに、「スキーのまち・喜茂別」として全国に知られるほど、多くの優秀な選手が育ちました。

特にクロスカントリーの世界では、喜茂別高校の選手たちがインターハイなどで数々の優勝と好成績をおさめ、「クロスカントリー王国・喜茂別」の名を全国にとどかせました。



全道から愛好家たちが続々集合

町内外から多くのパークゴルフ愛好家たちが本格的なコースとして人気の高い町民公園内パークゴルフ場を楽しんでいます。



クリーンで おいしい食べものだよ

自然と調和し、土づくりから展開

アスパラや馬鈴薯、メロンや花を育てているよ

喜茂別町の基幹産業は、恵まれた自然環境を生かした農業です。近年では、喜茂別町の気候、風土に適合したメロンやトマトといった高収益作物の栽培も盛んで、市場から高い評価を受けています。また、安全で良質な農作物を生産するために土づくりから展開。畜産農家との連携を図った堆肥を生産し、その利用を促進することでクリーン農業をめざしています。さらに、花き栽培も盛んで、インパチェンスやベゴニアなどの一年草をはじめ、多種多様な花々が生産されています。



馬鈴薯の花



ホワイトアスパラガス



秋の馬鈴薯収穫風景



喜茂別メロン



ホワイトアスパラガス収穫風景



花き栽培



日本でいちばん最初にアスパラを本格的に栽培したんだよ

喜茂別町は、昭和4年羊蹄山麓の火山灰地で日本ではじめてアスパラガスの本格的栽培が始まった土地です。色鮮やかなグリーンアスパラガスは北海道を代表する初夏の味覚として有名です。

また、上品な甘みと味わいが売り物のホワイトアスパラガスを、その新鮮なおいしさをそのままに缶詰にしたのがクレードルのアスパラ缶です。昭和7年に製造を開始し、日本を代表する味として世界に輸出され、今も愛されています。



町のシンボリックな存在のクレードル興農



クレードル興農ブランド商品



タカラ牧場の乳製品



アスパラを利用した「喜茂別アスパラもなか」が人気です。



2つの駅で ホッとできるよ。

やすらぎのオアシスロードでひと休み



郷の駅「ホッときもべつ」

喜茂別をはじめ、
後志の特産品がゲットできるよ

平成22年4月、国道230号沿いの喜茂別市街地にオープンした郷の駅「ホッときもべつ」は、新しいドライブスポット。ここでは後志管内の特産品を販売するだけでなく、ラーメンやうどんを味わえるイートインや、「喜茂別ロック」「コロッチ」など新しいで当地グルメが楽しめるコーナーがあります。また町をPRするインフォメーションセンター、町民のコミュニティスペースも兼ねていて、喜茂別町の新しいにぎわいを生む空間として期待を集めています。



きもべつ 周辺マップ



トイレ・インフォメーション施設

開館時間／お土産コーナー 9:00～20:00
フードコーナー 10:00～18:00
(トイレは21:00まで)
定休日／年中無休
所在地／〒044-0201
虻田郡喜茂別町字喜茂別306-3
TEL.0136-55-5130
FAX.0136-55-5131



郷の駅「ホッときもべつ」全景

道の駅「望羊中山」

一大パノラマが広がる
絶景の休憩スポットだよ



道の駅「望羊中山」全景



アスパラガスの塔/
平成8年度野外広告物コンクール公共広告
部門で北海道知事賞を受賞したモニュメント



全国公共トイレの中でグッドトイレ10に選ばれた
中山峠観光トイレ「森のしずく」

年間300万人もの観光客が訪れる旅の拠点
が道の駅「望羊中山」です。国道230号の
ほぼ中央にある中山峠にあり、平成5年4
月に道の駅として指定されました。羊蹄山
やニセコ連峰を一望できるこの「道の駅」
には、シンボルの「アスパラガスの塔」が立
ち、喜茂別町の素材を生かしたおみやげ品
や味わいが揃っています。大駐車場と24時
間利用できるトイレが完備され、訪れる
人々に情報や特産品などの提供を行って
います。



峠のあげいも
望羊中山イチオシの
名物「あげいも」が人気。

開館時間／8:30～17:30
定休日／年中無休
所在地／〒044-0223
虻田郡喜茂別町字川上345番地
TEL.0136-33-2671
FAX.0136-33-3475



道の駅に隣接し、連絡通路で往来できる「中山峠森の美術館」は、北海
道の魅力を存分に伝えるスペース。屋外には著名な彫刻家による野外
作品が展示され、自然とアートが融合した世界を創り出しています。



●喜茂別センター
ニセコ・羊蹄、小樽、積丹など、後志地域の観光総合情報サ
イト「しりべしネット」による最新情報を提供しています。
<http://shiribeshi-i.net>

●シーニックバイウェイプラザin中山峠
「シーニックバイウェイ北海道」。このプラザでは、各ルートの
観光情報・地域情報を写真や映像等で提供しています。
<http://www.scenicbyway.jp/>

すてきな笑顔が 元気のもとだよ。

1年を通して楽しい行事がいろいろあるんだよ

恒例の夏まつりや、古くから受け継がれている各地の神社祭、いろいろな作品や芸能が発表される文化祭をはじめ、さまざまなまつりなど、喜茂別町では1年を通してたくさんの多彩なイベントが催されます。

企画から運営まで町民みずからが参加して工夫をこらし、だれもが大いに楽しみ盛り上がる手づくりの行事。人々の素朴な笑顔に満ちた祭りは、まさにまちの元気のもとです。



双葉そば収穫祭で、おいしい交流
札幌のそば打ちグループが、双葉地区で
借りた畑で収穫したそばを使い、地域との
交流に感謝して行うイベント。打ちたての
新そばが振舞われ、そば打ちの指導も行
われます。



郷の駅でビアガーデン

郷の駅駐車場が会場となった喜茂別商工会青年部主催のビアガーデンは大盛況。出店や花菱会による打ち上げ花火で会場を盛り上げます。



短い夏を思いきり満喫

帰省する人も楽しみにしているのがお盆の帰省時期に開かれる「きもべつ夏まつり」。人気のやまべ釣りや花火大会だけでなく、アイデアを凝らしたプログラムが会場を沸かせます。



冬の花火大会が名物

「シーニックナイトinきもべつ」は、子どもから大人まで楽しめるアクティブなイベント。冬の花火大会は名物です。



昔から受け継がれてきた大事な祭り

夏から秋にかけて、各地区の神社祭りが次々と開催されます。「喜茂別神社例大祭」では神輿が繰り出し、まちを活気づけます。



楽しみながら健康になろう

高齢者や障がいをもっている方などが集まって行われる健康まつりは、軽いスポーツやゲームを楽しめます。



日頃の表現活動を発表する文化祭

「喜茂別文化祭」は、歌や踊りなどの芸能とさまざまな作品を発表するみんなのステージ。幅広い世代の参加が人気の秘密です。

festival of Kimobetsu

住民と行政の 協働だよ。

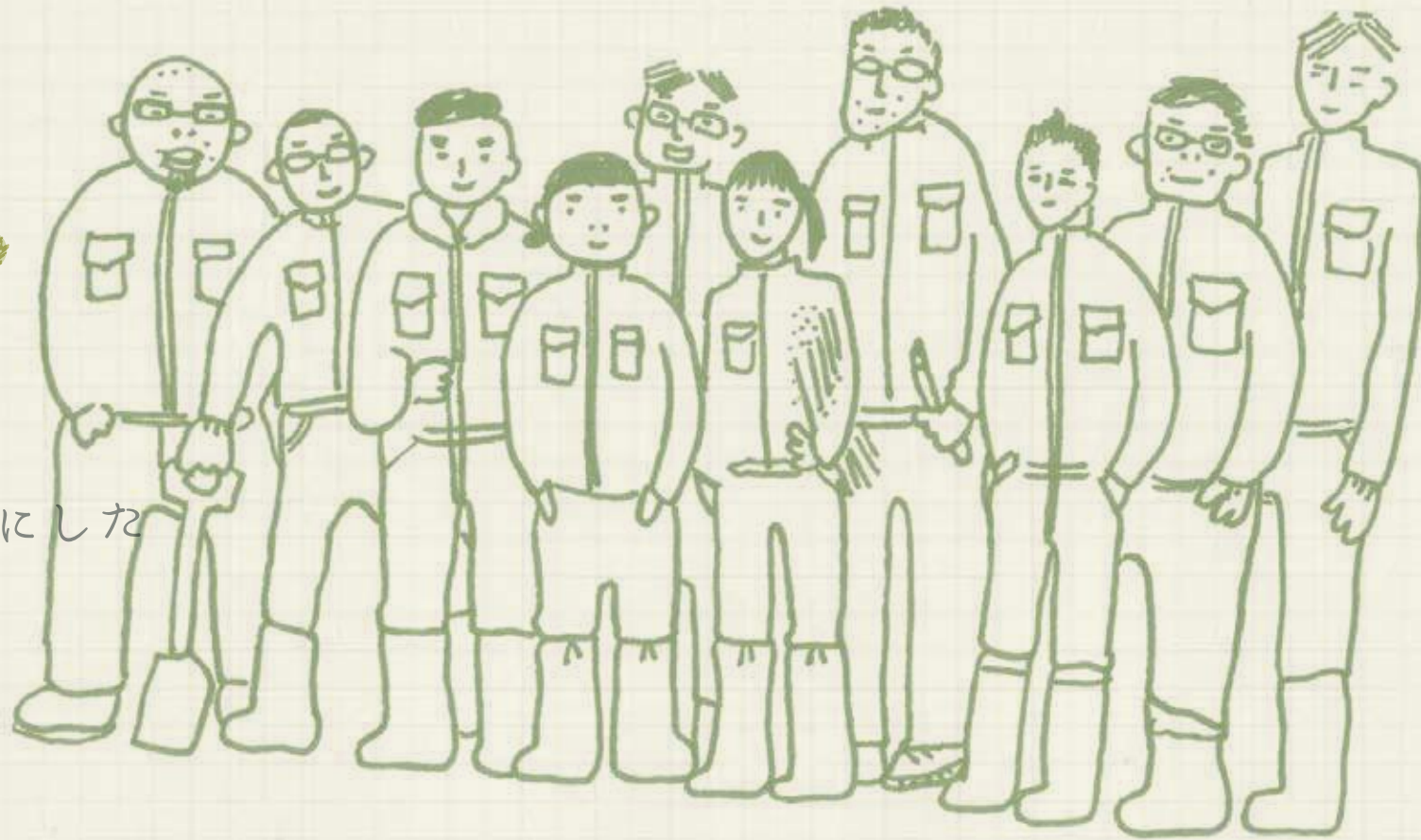
誰もが暮らしやすい地域づくり

町民の声をなにより大切にしたい
まちづくりをしているよ

喜茂別町では広報誌やホームページなどさまざまな媒体により、積極的に行政情報の共有化を行ってきました。さらに平成22年に全戸に設置したＩＰ告知端末で、迅速な情報提供と円滑な地域の連絡調整を図ります。さらに、光回線の超高速型ブロードバンドが全町でご利用いただけます。

また、町民の声を聴き、行政に反映させる「ふれあいまちづくり懇談会」では、出された意見や要望を検討し、予算編成に反映。次年度当初には、各町内会などに決定した予算や施策を説明しています。こうした取り組みを毎年繰り返し、町民の声をなにより大切にしたいまちづくりを進めています。

誰もが暮らしやすいまち・喜茂別をめざして、住民との対話を重ね、住民と行政の協働によるまちづくりに取り組んでいます。



まちづくりに関する活発な
話し合いがされているよ

住民参加の貴重な場である
「ふれあいまちづくり懇談会」
は、毎年11月に町内の7ヶ
所で開催され、活発な話し
合いが行われます。



高齢者を見守る
ネットワークをつくるよ

75歳以上の独居のお年
寄りを主な対象に、行政
機関や社会福祉協議会、
ボランティア団体などが
日常的に見守る仕組みを
検討しています。



地区のあり方を話し合うお茶会だよ

地区住民と集落支援員、地域おこし協力隊のコミュニケー
ションを深めるお茶会を、各地区で開催しています。



ＩＰ告知端末「おしゃべり回覧板」で、
双方向の通信が可能になったよ

町内全戸に設置されたＩＰ告知端末では、高速光ファイバー網を
使った双方向の通信が可能です。役場からのさまざまなお知らせや
防災情報などを音声で受信だけでなく、放送内容を画面で文
字確認することができます。



地域おこし協力隊が地域の活性化を支えているよ

平成22年度から「地域おこし協力隊」を導入し、10人の隊員を採用し
ました。
高齢の農家世帯や病気・けがをした農家の農作業の支援や、地域自
治活動の支援、高齢者の外出支援や見守り活動などを主に行いなが
ら、地域の活性化を図り、地域の人々を支えています。





開かれた学校で、豊かな心を育てているんだよ

子どもたちに必要なのは、主体的に学び、考え、判断するというく生きる力と、他人を思いやる心や感動する心、自然や生命を大切にすることなど、豊かな心を育む教育です。喜茂別町では、さまざまな奉仕活動や体験活動をととして、豊かな人間性や社会性、創造力の育成をめざしています。また、地域に開かれた学校づくりを進めるために学校評議員制度を導入するなど、保護者や地域住民の意向を教育活動や学校運営に積極的に取り入れています。



宿泊学習で絆が深まるよ

鈴川小学校では、毎年7月中旬に全校生徒による宿泊学習を行っています。自然の中でのキャンプは、みんなが力を合わせ工夫しながらご飯を炊いたり、料理を作ったりすることで子どもたちの絆を一層深めます。この学習をととして、上級生にはリーダー性、下級生には自主性が育つよう期待しています。



アフリカ太鼓ジャンベ、おもしろかったよ

ママドゥ・ローさんのワークショップで、子どもたちもいっしょにアフリカ太鼓ジャンベを叩いて演奏しました。



読み聞かせの会もしているよ

子どもたちはもちろん、すべての世代の読書活動を推進しています。



小中学校で英語の授業をしているよ

町内小中学校で外国人が楽しく英語を教えています。

札幌との交流の輪が広がっているよ

喜茂別町では、広域連携を深める取り組みとして、羊蹄山麓7町村に加え、隣接する札幌市内のさまざまな地域との交流・連携を行っています。南区とは中山峠での交通安全キャンペーンや医療機関との救急体制など、密接に提携しています。また定山溪温泉との連携事業では、定山溪かつばウィークに参加して喜茂別をPR。平成22年5月からは西区にある発寒商店街と交流を深め、町の特産品を商店街の空き店舗で販売するなど、札幌との交流・提携は広がりを見せています。



定山溪「かつばウィーク」に、鈴小の和太鼓が出演したよ

町と定山溪温泉との連携事業の一環で、秋のイベント「かつばウィーク」に、鈴川小学校児童の和太鼓が出演し、見事な演奏を披露しました。



喜茂別産のそばをいっしょに楽しむよ

札幌の手打ちそばグループ「白花」と双葉地区住民の間で始まった連携から、「双葉そば収穫祭」や「そば教室」が開かれています。



定山溪かつばウィークでの交流



発寒商店街での特産品販売

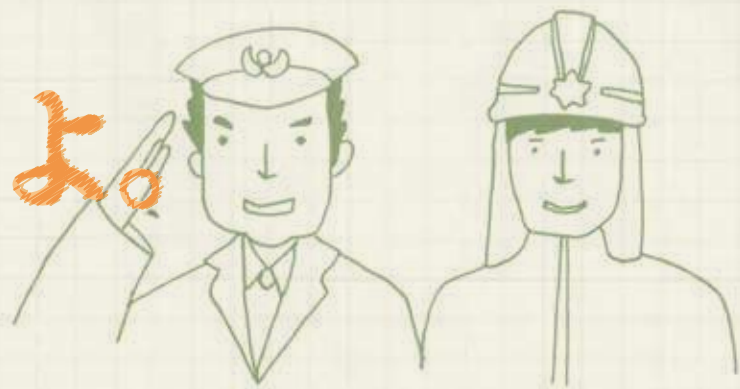


まちの安全を支えているよ。

快適で安全な環境整備

暮らしの安全対策に全力で取り組んでいるよ

町民がいつでも安心して暮らせる環境を整えることは、まちの重要な使命です。開拓以来、洪水に悩まされ続けた歴史を負う喜茂別町では、暮らしの安全を守る体制の強化に全力をあげて取り組んでいます。羊蹄山ろく消防組合の広域的な組織の中で救急・消防体制の強化を図り、防災や消防訓練などにも力を入れています。また、生活の基盤となる道路や公園、公共施設、流雪溝、通信網の整備、広域的なゴミ処理や計画収集など、快適な生活環境の整備にも努めています。



交通安全のためにみんなの意識を高めているよ

関係機関と連携し、交通安全に対するさまざまな活動を展開しています。みんなの交通安全に対する意識が町の安全を支えています。



機動性に富んだ、新しい消防車も入ったよ

平成22年6月、機動性に富んだ四輪駆動の小型ポンプ積載消防車が導入されました。安全確保に大きな力を発揮します。



新しい救急車で安心だよ

平成21年10月に新しい救急車が導入され、安心感が増しました。四輪駆動のガソリン車で機動性の高いエコカーです。



「きもべつ笑^えみへな」は、地域で子育てを支援するよ町民みんなで子どもたちを見守り、支える子育て環境を実現する施設として誕生したのが子育て支援複合施設「きもべつ笑(え)みへな」。ゼロ歳児保育専用室をはじめ、保育所、学童保育所、子育て支援センターだけでなく、地域集会もできる地域に開かれた施設です。



「洪水ハザードマップ」は、災害対策の準備になるよ

もしもの災害の時にどこに避難したらよいか、最寄りの安全な避難場所や避難に役立つ情報をまとめたものが「洪水ハザードマップ」です。平成22年8月に全戸配付されました。尻別川や喜茂別川が大雨などで氾濫した場合に想定される浸水の状況や洪水時の避難場所などを、地図上に色分けしてわかりやすく表示しています。備えあれば、憂いなし。ふだんから洪水ハザードマップで安全な避難場所などが確認できます。

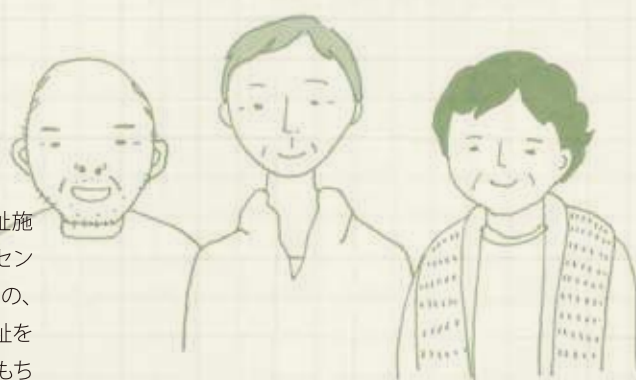




みんなで生涯健康 宣言するよ。

高齢社会をしっかりサポート

喜茂別町では、町民のだれもがすこやかに生きがいのある毎日を過ごせるよう、福祉施設を中心に総合的・体系的な福祉サービスの充実に努めています。デイサービスセンター、介護支援センター、健康増進やレクリエーション施設としての老人福祉センターの、3つの機能を備えた「ふれあい福祉センター」が、在宅福祉の拠点となって高齢者福祉を支えています。また、障がい者福祉の分野では、道路や公共施設のバリアフリー化はもちろん、地域の人たちの心のバリアフリー化に努めています。



さまざまな外出支援サービスがあるよ

高齢者の方に外出先での交流を楽しんでいただくため、趣味や生きがい、健康管理など、さまざまなサービスを充実させています。



フレッシュ大学で健康と生きがいが高まったよ

平成3年の開講以来、お大師山の清掃活動や、学生との世代交流、研修旅行など、実践活動を含むさまざまな研修活動を展開しています。



自然のなかをのんびり歩こう

老人クラブ福寿会主催の秋の歩こう会は、健康増進のためにその人に合ったスピードでのんびり歩き、バーベキューを楽しみます。



さまざまなプログラムがある デイサービス

「ふれあい福祉センター」のデイサービスセンターでは、バスで送迎し、健康チェック・入浴・日常動作訓練・給食サービスなどを行っています。



とてもためになる、 みんなの介護予防教室

高齢者が住み慣れたわが家で元気に暮らすことができるよう、介護を予防するためのさまざまなテーマで実践的に学びます。

だれもが健康な毎日を送れるように努めるよ

健康づくりのためには、健康的な生活習慣を身につけ、日々実践することが欠かせません。町では、「体の健康」「心の健康」「食と健康」を柱に掲げ、生活習慣病や食生活・運動・休養の正しい知識を身につける健康教育、健康相談などを開催しながら、栄養指導や保健指導を行っています。また、「健康は一つひとつの積み重ね」を合い言葉に、「自分の健康は自分で守る」という健康意識の啓蒙に努めて、各種検診や予防接種などを積極的に受けていただき、町民の健康づくりを支えています。



ハイテク測定器を使った北大健診に受診者続々

平成21年から始まった北大連携喜茂別健康プロジェクトにもとづく健康診断。受診者の増加は健康意識の高まりを表わしています。



誕生日に受診するバースデー健診

特定検診の受診率を上げるために、喜茂別厚生クリニックでは平成21年度からバースデー健診の仕組みを導入しました。



知っ得!栄養バランス塾

健康に役立つ食事について、栄養面からさまざまなテーマにそって実際に調理を体験しながら学びます。



ふれあい広場・健康まつりで盛り上がるよ

町に住んでいる高齢者や障がいを持つ方がいっしょに楽しめるおまつりで、競技と芸能発表が行われます。



町民一人ひとりが 主役だよ。

開かれた行政と議会によるまちづくり



時代へ対応した行政

社会は、いま大きな変革のときを迎えています。市町村において、少子高齢化や地方分権の推進などにどのように対応していくかが大きな課題となっている中で、喜茂別町は、“人と自然がきらめく町”をキーワードとし、まちづくりに取り組んでいます。町の主人公は町民1人ひとりです。すべての人がこの町に暮らすことに誇りと喜びをもち、夢や希望を胸に健やかに暮らせるまちづくりが行政の使命です。町では、21世紀にふさわしい明るい未来が展望できる行政を進めるため行財政改革を積極的に行い、住民ニーズに的確に応える行政サービスの提供に努めています。また、町民の声を積極的に行政に反映させるために行政情報の共有化を図り、町民と協働するまちづくりに取り組んでいます。



開かれた議会

町民と町政をつなぐ議会では、本会議においては条例や予算など町民の生活に直接関わる案件を審議し、総務、経済の2つの常任委員会や各種特別委員会では、事務事業の進捗や特命事項などの積極的な調査、検討が行われています。全国で最初に議員提案による情報公開条例を制定し、開かれた議会を徹底しております。



町長／菅原章嗣



副町長／内村俊二



教育長／麻生 隆



議長／戸井博志



副議長／日下博文





1871(明治4年)	伊達の旧臣阿部嘉左衛門入地駅通所を開く	1993(平成5年)	1月オフトーク「ふれあい通信」放送開始
1902(明治35年)	南部団体10余戸移住		4月中山峠物産館が建設省指定の「道の駅」に選ばれる駅名「望羊中山」
1911(明治44年)	山梨県253戸、福島県人80戸団体移住	1994(平成6年)	11月喜茂別厚生病院落成
1917(大正6年)	4月1日喜茂別村が真狩村(現留寿都村)から分村 同時に2級町村制施行 6月第1回村会開催		3月「喜茂別老人保健福祉計画」策定
			10月第1回町民スポーツ祭開催
			12月「橋場文俊記念館」がオープン
1918(大正7年)	3月喜茂別郵便局で電話受付配達並びに電話通話業務開始	1995(平成7年)	3月国土庁の「水の郷百選」に認定される
1919(大正8年)	5月喜茂別市街に電灯つく		10月農水省のグリーンツーリズムモデル育成地域に指定
1928(昭和3年)	10月胆振鉄道開通(喜茂別～京極間)		11月日本トイレ協会選考により「中山峠観光トイレ」がグッドイレ101に選ばれる
1929(昭和4年)	8月アスバラガス耕作始まる	1996(平成8年)	2月町民待望の温泉湧出源泉名「ふるっぶ温泉」
1933(昭和8年)	11月朝日アスバラガス缶詰株式会社創業		5月喜茂別行政改革大綱を策定
1939(昭和14年)	7月村立喜茂別診療所を開設(現厚生病院の前身)		8月「ふるっぶ温泉」仮設浴場開設
1945(昭和20年)	8月東京中野区からの疎開者18戸70余名本町着、終戦の混乱	1997(平成9年)	11月TVH本放送開始
1946(昭和21年)	2月喜茂別有線放送所誕生		3月開町80周年記念式典举行 町花、町木を指定
	1級村に昇格		ふれあい福祉センター落成
1947(昭和22年)	5月開村30周年、憲法発布祈念式典举行		8月花の見本市「バックライヤル」開催
1948(昭和23年)	5月喜茂別市街大火317戸焼失	1998(平成10年)	3月羊蹄小学校閉校
1950(昭和25年)	1月初めての成人式举行		10月喜茂別高等学校新校舎落成
1952(昭和27年)	7月町制施行	1999(平成11年)	12月一般廃棄物分別収集開始
1953(昭和28年)	5月札幌～虻田道2級国道に指定される	2000(平成12年)	8月中山峠健民センター事業民間へ委譲
	6月洞爺湖温泉から中山峠を経由し定山溪～札幌へ直通のバス運転開始	2001(平成13年)	10月「愛和の里きもべつ」竣工
1957(昭和32年)	8月2級国道230号線の舗装工事始まる		6月中山峠森の美術館オープン
	喜茂別土地改良区設立		3月喜茂別浄化センター完成
1960(昭和35年)	9月喜茂別市街の街灯完成(91灯)		4月下旬水道が市街地の一部で供用開始
	駅通り舗装完成(450m)	2002(平成14年)	11月一般廃棄物最終処分場供用開始
1962(昭和37年)	9月胆振線に急行運転(準急「いぶり」)	2003(平成15年)	3月双葉小学校閉校
1965(昭和40年)	7月中山峠に「アスバラガス発祥の地」の碑を建立	2005(平成17年)	4月放課後児童クラブ(学童保育)が始まる
	中山峠で初めてキャンプ村を開設		7月中山峠写真の森美術館リニューアル
	11月道より「健康づくりモデル町村」に指定される		7月中山峠森の美術館が写真の森美術館として開館する
	中山峠に国民宿舎、物産館、体育館落成	2006(平成18年)	3月自治連絡協議会が設立
1966(昭和41年)	7月開町50周年式典		10月鈴川地区で防災避難訓練が実施される
	中山峠健民センター第一期工事完成の祝賀会を行う	2007(平成19年)	4月後志管内16町村による後志広域連合が設立、本町も加盟する
	オリンピック記念スポーツハウス完成		喜茂別厚生病院が病床を廃止し、喜茂別厚生クリニックに呼称変更する
	12月健民センタースキーリフト完成(550m)	2008(平成20年)	11月鈴川小学校が開校100周年を迎える
	道立ユースホステル建設落成	2009(平成21年)	3月テレビ中継局を地上デジタル化整備、一部地域で視聴が開始
	冬季オリンピック練習地域に指定される		ふるっぶ温泉閉鎖
1968(昭和43年)	6月町営プール完成		7月喜茂別図書館開館
1969(昭和44年)	12月簡易水道完成、給水開始	2010(平成22年)	3月国道230号市街地交差点整備が完了
1970(昭和45年)	10月中山峠にスキーロッジ、トレーニングハウス、スキーリフト完成		きもべつ笑み～な新築落成
			地区における光ブロードバンドサービス提供開始
1973(昭和48年)	4月羊蹄山ろく消防組合発足、喜茂別支署となる		道立喜茂別高等学校閉校
1977(昭和52年)	8月有珠山噴火の降灰により農作物に被害あり		4月郷の駅「ホッときもべつ」がオープン
1980(昭和55年)	9月町健康体力づくり推進協議会が内閣総理大臣賞受賞		8月旧喜茂別高等学校校舎に喜茂別中学校が移転
1983(昭和58年)	11月中山峠物産館新装オープン	2011(平成23年)	2月町内全域に光ブロードバンド整備が完了し、おしゃべり回覧板の放送を開始
	12月喜茂別町観光協会設立		
1986(昭和61年)	3月第1回喜茂別冬まつり行われる		
	10月国鉄胆振線廃止、代替バスの運行始まる		
1987(昭和62年)	9月武道館落成		
1990(平成2年)	1月中山峠にアスバラの塔建立		
1991(平成3年)	2月双葉フラワーストリート知事表彰		
1992(平成4年)	3月「喜茂別町新総合計画」策定		
	10月喜茂別町小学校新校舎落成		



本通り(通称)喜茂別駅側から(大正期)



喜茂別市街(昭和12年ごろ)



町政施行祝賀パレード(昭和27年7月)



アスバラガス缶詰製造の作業風景(平成3年)



中山峠物産館(昭和58年)



きもべつ笑み～な(平成22年)



郷の駅「ホッときもべつ」オープン(平成22年)



■位置

喜茂別町は、北海道南部、後志支庁管内の東南にあって、札幌市を中心とする道央緑道圏の南西部に位置します。また、道内主要幹線である2本の国道が交差するまちで、道央圏主要都市に90分程度と恵まれた立地条件にあります。

■交通アクセス

- 車
札幌→喜茂別 約90分
倶知安→喜茂別 約30分
新千歳空港→喜茂別 約90分
- バス
札幌→喜茂別 約110分
道南バス
(洞爺湖温泉行き～喜茂別下車)
倶知安→喜茂別 約45分
道南バス
(伊達行き・喜茂別行き～喜茂別下車)

■喜茂別(きもべつ)の由来

アイヌ語の「キム・オ・ベツ(山の多い川)」から転化したもの。その名の示すとおり「えぞ富士」の名で知られる羊蹄山・尻別島などの山々に囲まれ、尻別川・喜茂別川をはじめ大小41の川が町内を流れています。

■喜茂別町の面積

喜茂別町の総面積は189.51平方キロメートルで、うち林野率が約80%と国有林を含む山林・原野の面積が大きく占めています。

■喜茂別町の気象

気候は、羊蹄山・尻別島をはじめ周囲に山岳が多いため、日照時間が短く、平均気温は5.7℃で風向きは夏は南西風、冬は北西風。羊蹄山麓特有の真夏の涼風の風が強く、また、降水量も多く特別豪雪地帯に指定されています。

■沿革

大正5年4月真狩村(現留寿都町)から分村して二級町村制施行、村名を喜茂別村としました。同9年6月洞爺村(現大滝村)の一部を編入。昭和27年7月町制施行。





喜茂別でお遍路！ お大師山の 八十八カ所巡り



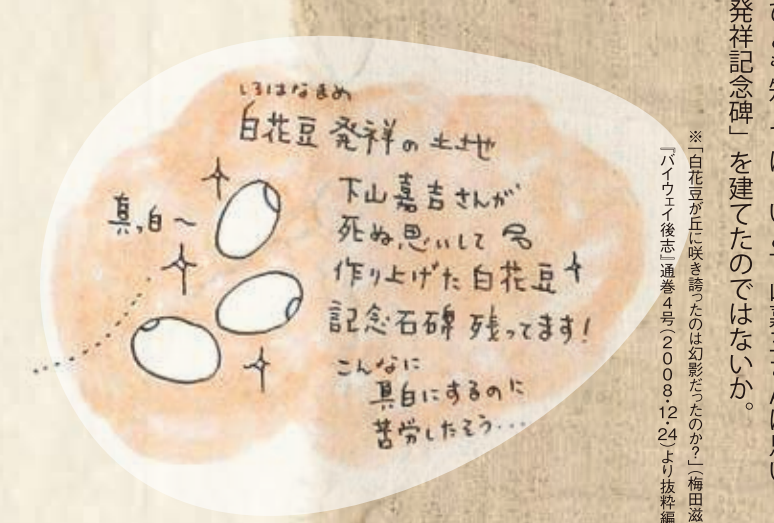
開拓の時代、四国から四国
物産展が、お大師山の頂上には
聖徳太子の太子像が、あて
1000年つづき、お大師山の頂上には



ハチハカ所石仏



農民のための、農民の手による工場を！
「クレードル興業」誕生物語
日本でアスパラガスが栽培されたのは徳川末期。その頃は觀賞用で、オランダ人が長崎に伝え
たのが始まりです。北海道では明治初期に開拓使によって導入され、アスパラガス栽培適地とし
て選ばれた喜茂別では、昭和4年にアスパラガス栽培が始まりました。
アスパラガスは傷がつきやすく、貯蔵も難いため、缶詰以外に販売の道がありませんでした
から、栽培農家は缶詰製造会社の不当な契約違反に悩まされます。そんななか、アスパラガス
栽培の農民が結集して「農民のための、農民の手による工場」をつくることを決意。昭和14年、「喜
茂別産業組合」のもとに缶詰工場を建設し、「アスパラガス 発祥の地」を表現する「クレードル」
というブランド名で、アスパラガスの製造を開始したのです。
戦後は、「北海道農業喜茂別工場」として出発しますが、昭和23年5月喜茂別大火により
工場が焼失、すべてが灰となつてしまいました。しかし関係者の懸命の努力で、翌年には「北海
道農村工業協同株式会社」を設立してホワイトアスパラガス缶詰の生産を開始。昭和32年には
社名を現在の「クレードル興業株式会社」に変更しました。
農民が主体となって農産物を加工し商品化した不屈の精神は、品質本位の商品づくりや原料
調達の基本理念として今も守られています。



※ 白花生豆の丘に咲き誇る花の影だつたのか「梅白豆」意
白花生豆の丘に咲き誇る花の影だつたのか「梅白豆」意
白花生豆の丘に咲き誇る花の影だつたのか「梅白豆」意

白花生豆は当時高値がついた福豆のさらに2倍の値段で仲買商人に買われたが、一
家は喜茂翁の怪我療養のため喜茂別を引き払うことになった。喜茂翁は平賀文さ
んにすべてを譲り後を託したが、白花生豆は大きな産業にならず、代わりに残ったの
が「花丘」という字名の誕生だった。
下山嘉吉翁は甲府で空襲に遭い、昭和20年12月29日に世を去った。戦後、あふ
れんばかりに流通し始めた白花生豆。その陰に父・喜茂翁の壮絶な人生があったこと
をぜひとも知ってほしいと下山嘉三さんは思い、「白花生
豆 植栽発祥記念碑」を建てたのではないかと、



下山嘉吉 記録 『白花生豆縁起』

夏、喜茂別町の双葉市街地の2キロ近い沿道には、色とりどりの花が咲きそろう。
この「双葉フラストリート」の一角、旧双葉小学校の校門から少し離れたところ
に端正な石碑がひっそりと佇んでいるのを「存在」だろうか？
「下山嘉吉翁の白花生豆植栽発祥記念碑」は、平成9年10月に建立され、「明治44年
4月下山嘉吉45歳、現山梨県甲府市落石村から入植、大正13年苦闘の末白花生豆の
純化を完成す」と揮毫されている。建立者の一人・下山嘉三さんは喜茂翁の次男で、
白花生豆の純化に人生をかけた喜茂翁の半生記を『白花生豆縁起』に著した人である。
嘉吉一家が明治44年に入植した場所の旧字名はソーケ
シノオマベツで、旧双葉小学校奥の小高い丘の向こう、現
在「花丘」と言われる場所だが、昭和13年に改称された。
白花生豆の純化に成功した下山嘉吉翁を讃えて付けられた
字名である。

白花生豆の物語は、山梨団体の集団移住から始まる。きつ
かけは、明治43年に山梨県甲府市笛吹川で発生した大水
害。地元で再起困難な農家を救済するため、山梨県庁が
北海道移住対策を実施し、253戸がソーケシノオマベツ
に入植した。しかし現地の過酷さは予想をはるかに超え、
入植1年目にして喜茂翁は大怪我で左手の機能を失った。
翌45年、入手した雑穀のハナメに真っ白い白花生豆が混じっているのを発見、こ
れをきっかけに喜茂翁は白花生豆純化に邁進する。翌春から白い豆だけを蒔き、収
穫できたものから白い豆だけを選び出し、さらにその白い豆だけを蒔いて収穫す
るという方法を繰り返すという、無謀に近い挑戦を続けること13年。ついに喜茂
翁は白花生豆の純化に成功する。

【歴史偉人伝】



比羅岡にある比羅夫神社。祭神は阿倍比羅夫（あべのひらふ）で、現在も古い
蝦夷刀が6振りと枕石が納められているといわれています。阿倍比羅夫は生没年不詳の
日本の将軍で、7世紀の大和朝廷が唐、新羅と戦った「白村江の戦い」の
水軍の将として有名です。
なぜ、その足跡が後志地方にあるのでしょうか。その由来は「日本書紀」。飛鳥
時代の658年、阿倍比羅夫が渡島蝦夷と接触、襲ってきた肅慎（ミシハセ）を
討ち、ヒグマ2頭、ヒグマの皮70枚を献上。翌年、後方羊蹄（しりべし）に政庁を
置いたと書かれているからです。
この場所がどこであったのか、定説はありません。津軽説もありますが、北方探検家、松浦武
四郎がヒグマの皮を献上したという記述から、この場所が北海道の羊蹄山のあたりと主張したた
め、喜茂別、倶知安、余市の郷土愛好家らはそれぞれの地元で政庁があったとし、明治以降には「北海道最古の都」
の標として神社や碑が建立されたり、地名を改称したりしました。今のところ比羅夫と特定できる遺跡などは発見され
ていませんが、余市町の大川遺跡など道内の遺跡から7世紀の鉄刀など、和人の交流を偲ばせる出土品があるとい
います。日本書紀に残る、比羅夫の足跡、検証は難しくとも、夢とロマンをかきたてられる謎です。

日本書紀の謎！ 唐、新羅と二戦を交えた 将軍・阿倍比羅夫がなぜ喜茂別に?!



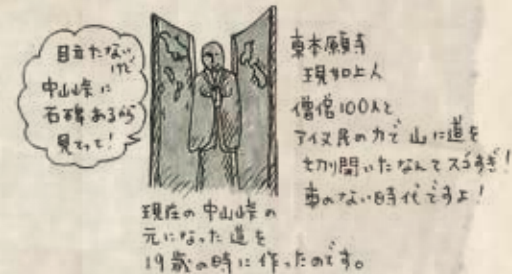
年間300万人もの観光客が来訪!!



道の駅「望羊中山」は道内でも有数の旅の拠点。
大駐車場とトイレを完備し、訪れる人々に情報や
喜茂別町の特産品などを提供しています。羊蹄
山やニセコ連峰を一望できるため、絶景の休憩
スポットです。また、隣接する「中山峠 写真の森
美術館」はリニューアルし、「中山峠 森の美術
館」として2011年4月29日にオープン。周辺の森
は森林浴や野鳥観察、フットパスコースとしても
注目されています。

あげいモのルーツを探る！ 中山峠といえば… あげいも!!

中山峠の名物といえば、「あげいも」。全国的に有名で、昭和43年
の販売以来、圧倒的な人気を誇っています。品質のいい喜茂別産
の男爵いもに、特製ミックスパウダーをからめてカラッと揚げて
いますから、ほのかな甘さとホクホク感、じゃがいも本来のおい
さを味わえると評判。ボリュームも満点です。
喜茂別町の職員だった伊藤ミネさんが考案したといわれています
が、特許をとらなかったため、現在は全道各地の観光地で売っ
ています。



あげいものマスコット
はいかが？
望羊中山名物の「あげいも」が
キューピーとコラボしています。この
かわいいマスコットは発売前から、
全国各地から問い合わせがあった
という人気ぶりです。



きもべつホッと新聞

創刊号
2011年5月31日(火)発行
喜茂別町

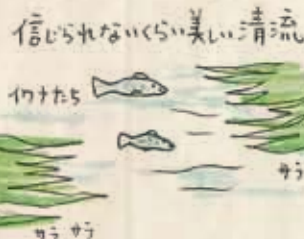
きもべつ 摩訶不思議 MAP

山の恵みのおすそわけ



元羊蹄小学校跡地
空地にポツと机が
置かれている。誰おいたの？
今は青空教室なのよ

至真狩
(ニセコへ)



至ルスツ
(洞爺へ)

アイヌ民族がいたから北海道に
初めて足を踏み入れた阿部嘉左衛門も
祭った神社！

上比羅夫神社

上比羅夫がいて、木とされる
刀剣が残っている！

喜茂別中

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

喜茂別小

大きな！

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ

イナバ



日本唯一の
プランケット聖遺原

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス

ツルハナス



中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

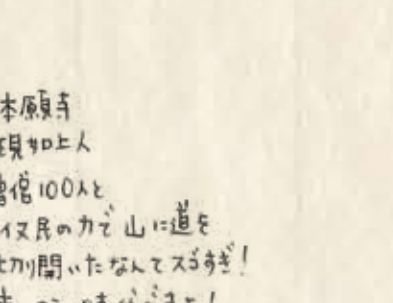
中山山

中山山

中山山

中山山

中山山



中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

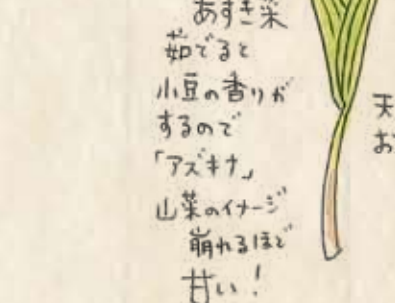
中山山

中山山

中山山

中山山

中山山



中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

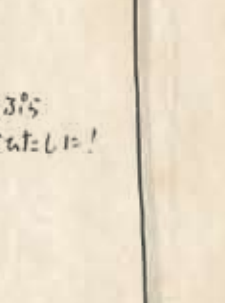
中山山

中山山

中山山

中山山

中山山



中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山

中山山